

## 協働的な学び研究部会 授業実践【重点授業】

令和4年11月22日 4年2組 授業者：門脇 ちひろ

教科：道徳

主題名：わたしたちの学級や学校 内容項目【C よりよい学校生活、集団生活の充実】

ねらい：学級のよさを見つけることから自分たちの学級や学校のよさをあらためて考え、  
みんなで協力して楽しい学級や学校を作ろうとする態度を養う。

教材名：交かんメール

### 1 部会の目標

相手の考えを尊重し、互いに受け入れたり、比べたりしながら、主体的に課題解決に取り組める児童を育てる。

### 2 本時の学習について

#### (1) 児童の実態

- 自分の意見をもって発表できる児童は、三分の一程度である。
- ICT機器を使いこなし、互いの意見のよさを見つけたり、分類したりすることができる。

#### (2) 目指す児童の姿

- 自分と違う意見を聞いて、まとめたり、整理したりすることができる。
- 自分の学級のよさを出し合ったり、知ったりする中で、異なる考え方が組み合わさることで他者を価値のある存在としながら、よりよい学びを生み出していく。

#### (3) これまでの取組

- ロイロノートによる「わたしのアップとルーズ記事」の作成（国語）
- ジャムボードによる「付箋機能」の活用（道徳）
- ロイロノートによる「自分の考え」の共有（算数）

### 3 授業における手立て

- ロイロノートの「同心円状チャート」を活用し、学級のよさについて整理する。
- 自分の考える学級のよさを発表したり、友達や学校の先生方が考える学級のよさを知ったりしながら、ロイロノートで共有する。今後、ロイロノートで共有したことなど保護者に発信する準備もする。



### 4 指導者から

- 整理する方法として、同心円チャートで良かったかどうか。
- 事前アンケートで集計をとったのを見せたのは、動機付けになっていた。
- 主体的・対話的・深い学びに結び付けるためには、今後も継続的に見ていく事が大切である。

## 5 成果○と課題●

- 学年の友達や先生方からの動画が効果的だった。
- 子供たちが話し合う時間を十分確保できていた。
- 共有場面で先生がグループで話し合ったことを紹介するのではなく、画面共有をして子供たちが見て同じ意見や違う意見を知れると良かった。
- 最後の発問は、もっとよくするためでなくとも続けていけることでもよい。